

ナイター 早村 春鶴

ナイターの真まのファンまの外野席  
噴水のライトアップに踊りをり  
雲の峰崩れかけてはなほ高く  
雲の峰フェリーの航路ふさぎをり  
雲の峰自衛艦隊北上す

夏の雲 東 素子

雲の峰もくろみの裏商店街  
研究会用具背にして雲の峰  
放物線描く噴水子等包む  
笑い声はずむ噴水友として  
噴水でぬれし顔振る一二三

梅雨晴れ間 山本 春英

野良猫のしばらく見へぬもどり梅雨  
早乙女の居ぬ田農機の廻りゆく  
梅雨晴れの下校の子等の声高し  
久々に診療待つや梅雨晴れ間  
傘たたむまたひろげたり梅雨の街

ががんぼ<sup>※</sup> 森本 智子

鳥声の静まりかへる夏木立  
六月や下校の子等の声の張り  
ががんぼのひとつ流れに逆ひて  
しぶきあげ躍りわた込む水青田風  
入梅のやさしき雨の待ち遠し

夏の蝶 坂井 白萩

唐来※の玉葱料理今日も又  
鳥達に残せし樹頭さくらんぼ  
紫陽花の花のみ残し枝切らる  
目も眩む強き西日や夏の蝶  
夏の服長き手脚の白きかな

※ががんぼ 蚊蜻蛉のこと蚊姥とも言う

※唐来 唐らしい物のこと

